

発熱

- 熱だけで脳がやられることはありません。
- 乳幼児の体温は、大人より少し高く37.5℃以上を発熱として見て下さい。
- 高熱の時は、頭やわきの下を冷やすのも効果があります。また、十分な水分補給が必要です。
- 熱があっても元気で、食欲もあればあわてて診察を受ける必要はありません。翌日、かかりつけ医の診察を受けましょう。

ひきつけ

- 子供のひきつけの大部分は、熱性けいれんで命にかかわることはまずありません。
- ひきついたら、あわてず服をゆるめ、吐いたら物がのどにつまらないように体ごと横にして下さい。体をゆすったり、抑えつけてはいけません。
- 舌をかむことはありませんので、口の中に箸などを無理やり入れる必要はありません。
- けいれんが10分以上続く時は、至急診察を受けましょう。

せき

- 軽い咳で熱もなく、食欲もあり元気な場合は心配ありません。
- 変な咳やゼーゼー、ヒューヒューなど苦しそうな呼吸をしている時は診察を受けましょう。
- 適切な温度、湿度を保ち水分を十分とるようにして下さい。

嘔吐

- 乳幼児は急に吐くことがよくあり、1、2回吐いた程度で元気にしていれば心配ありません。
- 激しい腹痛や嘔吐、下痢を繰り返したり、血便が見られた場合には、診察を受けましょう。